

第
69
回

おおさかたぎぎのうら

大阪新能

令和7年8月11日(月・祝) 12日(火)

午後5時半開演 午後4時半開場

生國魂神社境内

電話〇六―六七七―〇〇〇二
地下鉄谷町線「谷町九丁目」③出口
谷町筋南へ200m右入ル

【What is Osaka Takigi Noh?】

Every year on August 11th and 12th at Ikutama Shrine, Takigi Noh performances are held using the light emitted from fire lanterns.

It is now an annual event that has become to be known as a signature summer event in Osaka.

【What is Noh?】

Noh is a total art form comprised of drama, music and dance elements, that has been handed down through generations and been labeled one of the worlds oldest performing arts.

ヤングNOH能
キッズ&学生

はまってみよう 謡の世界

令和7年8月11日

午前10時～

入場無料

雨天の場合は
大阪新能に準じて開延

1日目(十一日)	2日目(十二日)
橋弁慶 (宝生流) ハ能	清経 (観世流) ハ能
佛師 (大藏流) ハ能	太刀奪 (大藏流) ハ能
火入れ式 (観世流) ハ能	初雪 (金春流) ハ能
夕顔 (山ノ端之出 法味之傳) ハ能	土蜘蛛 (観世流) ハ能
猩々乱 (観世流) ハ能	

チケットぴあ



Osaka Takigi Noh

Dates : August 11th (Mon) / 12th (Tue), 2025 at 5:30pm

Location : Ikutama Shrine

Closest Station: Osaka Metro Tanimachi 9-chome Station
- T25/S18

Admission : Advance ¥3500 , Doors ¥4000 ,

Doors - Discount for students ¥2000

Contact : Ikutama Shrine +81 (0)6 6771 0002

入場料[各日]: 当日券 4,000円 前売券 3,500円 学生券 2,000円(当日のみ)

主催: (公社)能楽協会 大阪支部・大阪新能委員会

後援: 生國魂神社

助成・補助: 大阪市・(公財)東教育財団

前売発売所: チケットぴあ (Pコード534-545)

大丸心齋橋店 近畿日本ツーリスト(上本町)

生國魂神社 各出演者 各能楽堂

※ 契約カメラマン以外の録音及び写真・ビデオ撮影は堅くお断り申し上げます。

降雨その他の事情により演能が不可能となった場合は火入れ式終了を以てその日の新能は成立とさせていただきます。なおこの場合、順延及びチケットの払い戻しは致し兼ねますので悪しからずご了承下さい。

令和七年八月十一日(月・祝) 午後五時半開演

能楽を
より楽しく御覧頂くために
能楽水先案内人 中田一葉
成田 奏

橋弁慶

(宝生流)

從者 辰巳孝弥
牛若丸 辰巳紫史莉
武藏坊弁慶 辰巳大二郎

大鼓 上野義雄
小鼓 久田陽春子
笛 森田啓子

間 都ノ者 善竹隆司
上吉川 徹

後見 石黒実都
岡本知子
堀口雅一 山内崇生
伊東静夫 辰巳満次郎
畑 宏隆 澤田宏司

佛師

(大藏流)

〓狂言〓 Bushi
すっぱ 善竹彌五郎
田舎者 小西玲央
後見 上西良介

あいさつ

大阪市長 横山英幸

火入れ式

〓能〓 Yugao
成田達志

夕顔

旅僧 廣谷和夫
大鼓 守家由訓
小鼓 上田敦史
笛 齊藤 敦

夕顔

(観世流)

夕顔上 梅若基徳

間 所ノ者 善竹隆平

後見 生一知哉
上野朝義

地謡 梅若雄一郎 井戸和男
上野朝彦 梅若堯之
林本 大 梅若猶義
水田雄昭 井戸良祐

〓仕舞〓

氷室

山口尚志
大菅義信
田中敏文
谷口雅彦
北川米喜

蟬丸

塩谷 恵
地謡 宮下昌子
赤井きよ子
立花香寿子
前田飛南子
山下あさの

〓能〓 Shojomidare

猩々乱

(観世流)

双之舞

猩々 山本麗晃
猩々 山本章弘

高風 中村宜成

大鼓 山本寿弥 太鼓 上田慎也
小鼓 成田達志 笛 赤井要佑

後見 山中雅志
大西礼久

地謡 稲本幹汰 今村哲朗
田中誠士 山本正人
上野雄介 上野雄三
山田 薫 寺澤幸祐

終了予定 午後八時四十五分頃

令和七年八月十二日(火) 午後五時半開演

能楽を
より楽しく御覧頂くために
能楽水先案内人 中田一葉
成田 奏

清経

(観世流)

清経ノ妻 山田 薫
平清経 齊藤信輔

大鼓 山本哲也
小鼓 清水皓祐
笛 貞光訓義

後見 大槻裕一
赤松禎友

地謡 田中誠士 林本 大
稲本幹汰 寺澤幸祐
鶴 克彦 山本博通
今村哲明 水田雄昭

太刀奪

(大藏流)

〓狂言〓 Tachibai

太郎冠者 善竹隆平
主人 上西良介
道通り 上吉川 徹
後見 小西玲央

あいさつ

薪能委員長 梅本憲史

火入れ式

〓能〓 Hatsuyuki
谷口雅彦

上臈 湯本哲明
上臈 田中直樹

姫君 中田能光

姫君 金春飛翔

初雪

(金春流)

侍女 善竹隆司

後見 佐藤俊之
金春嘉織

地謡 酒井賢一 中村昌弘
廣瀬雅弘 金春穂高
植松 洋 吉川恵宥

〓仕舞〓

烏頭

高林昌司

地謡 松井俊介
高林白半 三
高林呻二

〓能〓 Tsuchigumo

トモ 伊原 昇
胡蝶 前田和子

額光 武富康之

土蜘蛛ノ精僧 長山耕三

土蜘蛛

(観世流)

獨武者 福王知登

從者 佐々木 秀

從者 中村宜成

後見 上野雄介
上野雄三

地謡 梅若雄一郎 上野朝彦
永田克壬 大西礼久
金子 昭 上野朝義
山本麗晃 井戸良祐

終了予定 午後八時四十五分頃

附 祝言

第一日

「橋弁慶」

京、五条の橋の上で牛若と弁慶が初めて出会う有名な話、能では女装し待ち構える牛若に弁慶が挑み、激しい切組のあと弁慶が降参し牛若に臣従し一緒に九条の御所に帰って行くのでした。

「佛師」

お堂を建てたい田舎者が都で佛師に扮したすっぱ(詐欺師)に会う、仏に変装したすっぱがどうやって騙すのかが見せ所の狂言。

「夕顔」

京、河原の院に立ち寄った旅の僧の前に現れる一人の女、その女は光源氏の寵愛を受けた夕顔の霊だったのです。

「猩々乱」

中国揚子の里に住む親孝行の高風の前にいくら酒を飲んでも顔色が変わらない猩々が現れ富貴をもたらし、能を代表する祝言の能、「乱」になると足使いの優雅さが見所。

第二日

「清経」

平清経の妻の元へ家臣の淡津三郎が清経が入水して果てたと悲報を持ってきます。やがて悲嘆に暮れる妻の枕元に清経の霊が現れ死に至る様子や修羅道の苦しみを現しますが最後は念仏によって救われるのでした。

「太刀奪」

参詣に出かけた主人と太郎冠者が同中で出会った男の太刀を奪おうとするのですが逆に男に主人の太刀を奪われてしまいます。さて二人はどうやって太刀を奪い返すのでしょうか。

「初雪」

姫君が可愛がっていた初雪という名の鶏がある日死んでしまう、悲しさのあまり供養をしていると空から初雪が舞降り、懐かし気に舞を舞い功德により成仏出来た事を喜びいずくともなく飛び去っていくのでした。

「土蜘蛛」

病に伏せている源頼光の前に現れる怪しい僧、実は土蜘蛛の精で頼光の病は自分の呪いである事を告げ蜘蛛の糸を投げかけ消え失せる。やがて頼光の家来独武者が從者を引き連れ大和葛城山の土蜘蛛の塚に出向き格闘の末首を落とし退治するのです。シテの土蜘蛛が千筋の糸を投げかけるのが見所。

入場料

当日券 四、〇〇〇円 (各一日有効)
前売券 三、五〇〇円 (各一日有効)
学生券 二、〇〇〇円 (当日のみ)

入場券
販売所

◆チケットぴあ (d)ーデ 534-545)
◆大丸心斎橋店
◆近畿日本ツーリスト (上本町)
◆生國魂神社 ◆各出演者 ◆各能楽堂



都合により能の一部を短縮することもありますのでご了承下さい。
当公演は、指定写真班を設けております。事前に許可のない方の
録音及び写真・ビデオ撮影は堅くお断り申し上げます。

降雨その他の事情により演能が不可能となった場合は火入れ式終了を
以てその日の薪能は成立とさせていただきます。なおこの場合、順延及び
チケットの払い戻しは致し兼ねますので悪しからずご了承下さい。